新名神高速道路 宝塚北サービスエリア、宝塚北スマートインターチェンジを活用した地域の取り組み

宝塚市　産業文化部

宝塚北サービスエリア全景

1．はじめに

平成 30 年 3 月 18 日に新名神高速道路（高槻～神戸間）の全線開通に併せて、宝塚北サービスエリア（以下「SA」という。）とサービスエリアに併設する宝塚北スマートインターチェンジ（以下「スマート IC」という。）が開業しました。

平成 7 年 7 月に新名神高速道路（高槻～神戸間）が都市計画決定されてから 23 年を経て、悲願が達成されました。

西日本高速道路株式会社の発表によると、新名神高速道路の開通により名神・中国道との交通分散が図られ、開通 1 か月後の渋滞回数が約 9 割、最大渋滞延長が約 4 割減少しました。

高速道路整備の目的である渋滞緩和と自動車交通･物流の円滑化が進む中、宝塚市における SA やスマート IC を利活用した地域の取り組みについて紹介します。

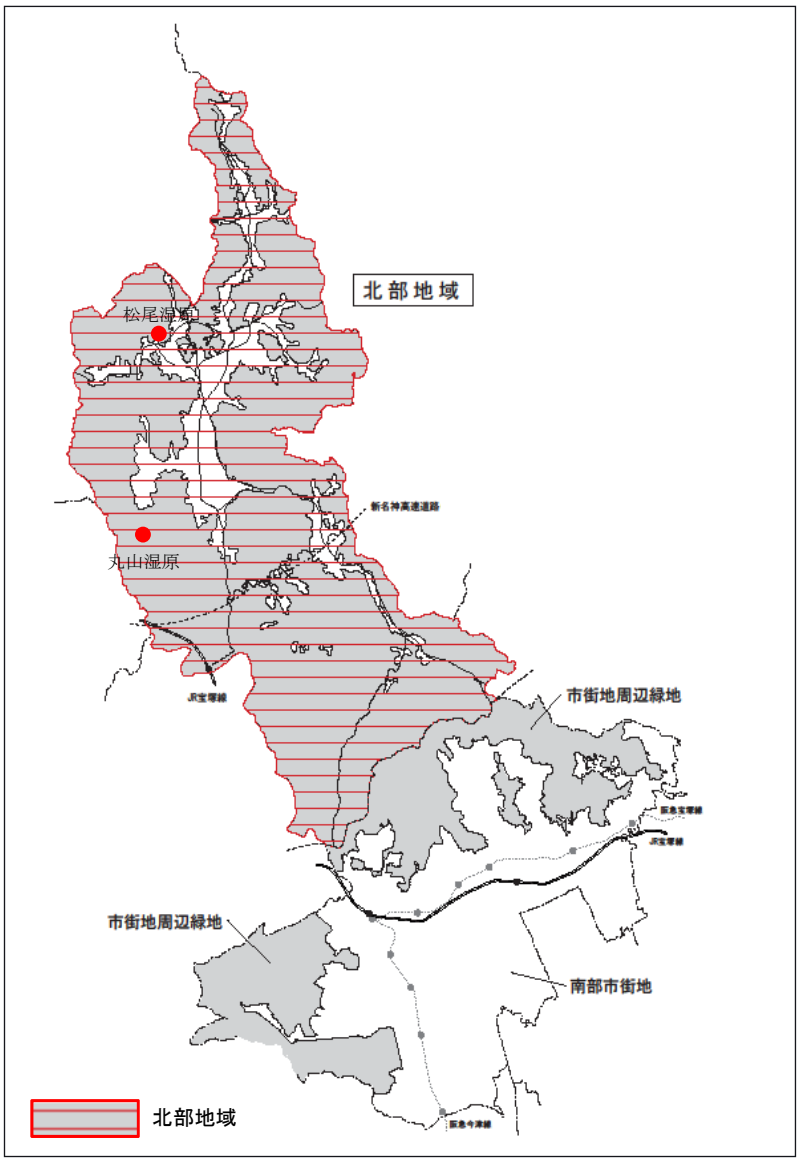
2．宝塚市北部地域（西谷地区）について

宝塚市といえば多くの皆様は、“歌劇の街”または“手塚治虫の街”を連想されることと思います。一方で、“自然の宝庫・宝塚”という側面も持っています。

新名神高速道路は、市の北部地域の山間部を横断していますが、市域の約 2/3 を占めるこの旧西谷村区域を現在でも西谷地域と俗称しています。（地図には「西谷」は載っていません。）

宝塚市は、宝塚歌劇のある南部の市街地とは対照的に、西谷区域を農林業の振興及び自然環境の保全のために市街化を抑制すべき区域として市街化調整区域に指定し、豊かな田園風景と里山を守っています。そのため、県指定天然記念物「丸山湿原」や市指定天然記念物「松尾湿原」のほか環境省指定の「守るべき里地里山」にも選定されるなど豊かな自然環境と農作物の生産環境を保持しています。

しかし、ここ西谷地区は、近年の少子高齢化の進行や若者の農業離れの影響から人口減少が著しく、この 10 年で人口が 16% 以上減少し、高齢化率が 49% という状況にあります。地域では、人口減少に歯止めをかけ、地域を活性化させることが大きな課題となっているため、新名神高速道路と宝塚北 SA，スマート IC を最大限活用して地域振興に結び付ける話し合いや活動を起こそうとしています。



宝塚市全域図

3．宝塚北 SA の概要

宝塚北 SA は、『「宝塚らしさ」あふれる憩いの空間』と題して、NEXCO 西日本グループにより計画され、宝塚市中心部「花の道」周辺の南欧風景観をイメージした「宝塚モダン」をデザインコンセプトにした建物外観と上下線集約型レイアウトが特徴となっています。その規模は、西日本で最大級であり、一般道からも利用が可能なウエルカムゲートが備え付けられています。

エリア内は、上質で心地よい空間となるよう随所に工夫が凝らされています。そして、店舗棟では、宝塚歌劇や手塚治虫の関連商品が並ぶほか、関西の定番の土産物に加えて本市の特産品コーナーも設けられました。また、館内の大型ディスプレイを活用した観光 PR や観光マップの配布など、高速道路の地域連携も大きな魅力となっています。

宝塚北サービスエリア、宝塚北スマートインターチェンジ　パース図

［提供：西日本高速道路株式会社］

4．宝塚北スマート IC の概要

宝塚市は、新名神高速道路と宝塚北 SA の建設に合わせて、地域振興、高速道路の利便向上、広域的な救急搬送の充実、緊急輸送路の機能向上を目的に、全方向 24 時間対応、車長 12m 以下の全車種対応の SA 接続型スマート IC を整備するとともに、新名神高速道路の工事用道路を一部改良し市道としてスマート IC への接続道路を整備しました。

スマート IC 整備については、近畿地方整備局、西日本高速道路株式会社ならびに兵庫県に何度も勉強会を開催していただき、法に基づく連結許可を取得することができました。

また、事業化の折には、様々な技術支援を受けて、兵庫県公安委員会との協議を成立させ、工事着手に至り無事に完成することができました。改めて関係機関の皆様にお礼を申し上げます。

高速道路の開業後 1 ヵ月間のスマート IC の平均利用台数は、約 3,000 台 / 日、高速道路の平均交通量（高槻 JCT ～神戸 JCT 間）は、約34,800台/日となっており、どちらも予測を大きく上回る利用実績となっています。この整備効果を維持するためにも、SA とスマート IC を利活用した取り組みを進めていきます。

宝塚北スマートインターチェンジ遠景

5．SA、スマートICの活用

新名神高速道路、SA、スマートICの整備は、本市の地域振興に資するものとして期待の高まる中で、宝塚市は、西谷地域の人口減少や高齢化の進行に起因する様々な地域課題を解決する目的で、「宝塚市北部地域まちづくり基本構想」［表1］を策定しました。

この構想の策定には、検討段階から地域の各種団体が参画し、意見交換を重ね、地域課題を地域と行政が共有し、市街化調整区域を堅持するという共通の価値観の中で、実施可能なことを中心に構想しました。

構想の検討と並行して、地域住民有志が集まり新たな地域の特産品の開発研究などが始まりました。また、地域の観光集客施設では、ホームページの刷新や駐車場整備が進められ、観光誘致の機運の高まりも見せ始めています。

［表1］　宝塚市北部地域まちづくり基本構想（概要）

目　　標	参画と協働を基本として、「宝塚 花の里・西谷」で演出された豊かな田園風景を活用し、交流人口を増加させ、定住人口の維持を図る。
基本方針	1　“農”と“自然”を活かして交流人口の増加を図る。 2　既存集落内に住宅を確保し市街地からの移住を促す。 3　既存施設の連携や機能強化により安心して暮らせる住環境の充実を図る。
戦　　略	一定の人口を保ちながら地域振興を図るためには、地域の特色である農と里山のある風景や地域の歴史や文化、そして地域に居住する人々の温かさ等の魅力を発信し、全国に向けて宝塚北部の西谷という地域を認知してもらい、まず、西谷に来て、見て、触れる行動を誘引し、リピーターを増やす取り組みを進める。そのために、西谷の魅力や想いが詰まった「宝塚 花の里・西谷」を共通の旗印に地域住民と行政が協働して行動する。 知名度や魅力の定着に併せて、定住希望者のための住宅を確保し、地域内に産業を育成し雇用を確保することで地域経済の活性化を図るとともに、インフラ整備等住環境整備と地域活動および行政活動の拠点機能の強化することで日々の生活における安心感を向上させ、人口維持を図る。
	1　訪れたくなる魅力的なまちづくり (1) 地域の魅力発信 (2)「花の里・西谷」づくり (3) 農作物の地産地消推進 (4) 里山保全と活用 (5) 集客施設の充実と連携強化
	2　住み続けたくなるまちづくり (1) 人・農地プランや認定農業者制度を活かした支援 (2) 空き家の有効活用 (3) 土地利用規制の弾力化
	3　安心して暮らせるまちづくり (1) 拠点機能の見直し (2) 道路交通インフラ整備

商品開発の分野では、西谷の物産や素材を原材料とした地域ブランド「宝塚 花の里・西谷」が平成29年4月に誕生し、各所の新商品発表会への出店や特設販売を繰り返し、宝塚北SAの開業に合わせてSA内で販売が開始されており、地域の魅力発信に一役買っています。

上図：地域ブランド「宝塚 花の里・西谷」
宣伝リーフレット

右図：地域ブランド「宝塚 花の里・西谷」
SA 内 販売コーナー

この他にも、SA を活用して様々な地域イベントの企画を検討中であり、イベントを開催することで、地域にも元気を呼び込み、賑わいの素にしていきたく考えています。

また、SA が開業することで西谷地域に雇用の場が創出され、年齢や性別に関係なく多くの方が就業されています。

定住人口維持対策については、市街化調整区域における建築制限を緩和し、IU ターン者を受け入れやすくするために「市街化調整区域における開発行為及び建築物の新築等に関する条例」を制定に向けて手続きを開始しました。併せて、北部地域土地利用計画を定め、集落毎の特別指定区域制度の導入を目指しています。

6．終わりに

今回、新名神高速道路とSA、スマートICの供用開始を契機とした地域課題解決の取り組みの一端を紹介しましたが、それぞれの取り組みは始まったばかりであり、継続的に取り組むべき課題は山積しています。

例えば、新しく生まれた地域ブランドが、将来は6次産業として定着し、継続的に販売されるようブランドを守り、育てていく必要があります。また、土地利用規制の緩和策や建築物の新築に係る手続きの簡素化などに関する制度は、活用され、定住者の増加に繋げられなければいけません。さらに、観光客の誘致についても地域内の観光農園の充実が求められ、そのための新規就農者を増やす一層の努力が求められています。そして、地域住民の生活や観光を支える公共交通の維持改善も大きな課題となっています。

地域住民と行政は、これらの課題の克服に向けて引き続き地域住民と協働して取り組むことが必要であり、高速道路の整備を地域振興の着実な効果へと結び付けていきたいと考えています。

「宝塚モダン」をデザインコンセプトとした外観

宝塚歌劇・手塚治虫コーナーと
スイーツショップ